

最上川下流左岸地区の沿革

大昔、庄内平野は海とつながる大きな湖(潟湖)で、約1,200年前に最上川や赤川が運んでくる土砂が堆積し現在の姿になったといわれています。712年に出羽の国が設けられて以降、屯田兵や入植者として多数の農家が居住しましたが、用水を池沼や溪流に頼る低平地で安定した農業を営むことは難しく、多くの農民がこの地を離れざるを得ませんでした。

1601年(慶長6年)に狩川城主となった山形城主最上家臣の北楯大学助利長は、農民の窮状を打開するため10年余りの調査の結果、1年中、月山の雪解け水が流れる最上川支流の立谷沢川を水源とする計画をたて、1612年(慶長17年)から3年の歳月をかけ北楯大堰を完成させました。北楯大堰の完成により、庄内平野の荒れた野原は5,000haの農地に生まれ変わりました。

また、最上家の後を継いだ出羽庄内藩主の酒井忠勝は、積極的に稲作を奨励、千石船(北前船)で領外に庄内米を販売し大きな利益を得ました。当時、酒田港に出入りする船は1796年(寛政8年)1年間で522隻を数え、この賑わいは鉄道が開通する1914年(大正3年)まで続きました。

その後も1908年(明治41年)の吉田堰完成や県営かんがい排水事業「北楯大堰地区」(昭和17~24年度)、「最上川地区」(昭和28~46年度)等の実施により国内有数の穀倉地帯として大きな発展を遂げるとともに、下記事業等による老朽化施設の改修や近代化により、農業用水の安定供給と管理の合理化が図られています。



国営事業改修前の北楯大堰用水路



明治後期の旧北楯頭首工



往時を偲ばせる山居倉庫

前歴事業の概要

●国営かんがい排水事業「最上川下流地区」

関係市町	山形県鶴岡市(旧藤島町)、酒田市(旧酒田市、旧八幡町、旧松山町、旧平田町)及び東田川郡庄内町(旧余目町、旧立川町)
受益面積	12,860ha
総事業費	15,191百万円
事業工期	平成5年度~平成13年度
事業内容	頭首工 1箇所 揚水機場 1箇所 用水路 L=14.5km

●国営かんがい排水事業「最上川下流沿岸地区」

関係市町	山形県鶴岡市(旧藤島町)、酒田市(旧酒田市、旧八幡町、旧松山町、旧平田町)及び東田川郡庄内町(旧余目町、旧立川町)
受益面積	12,573ha
総事業費	15,453百万円
事業工期	平成13年度~平成23年度
事業内容	頭首工 2箇所 揚水機場 2箇所 用水路 L=34.4km

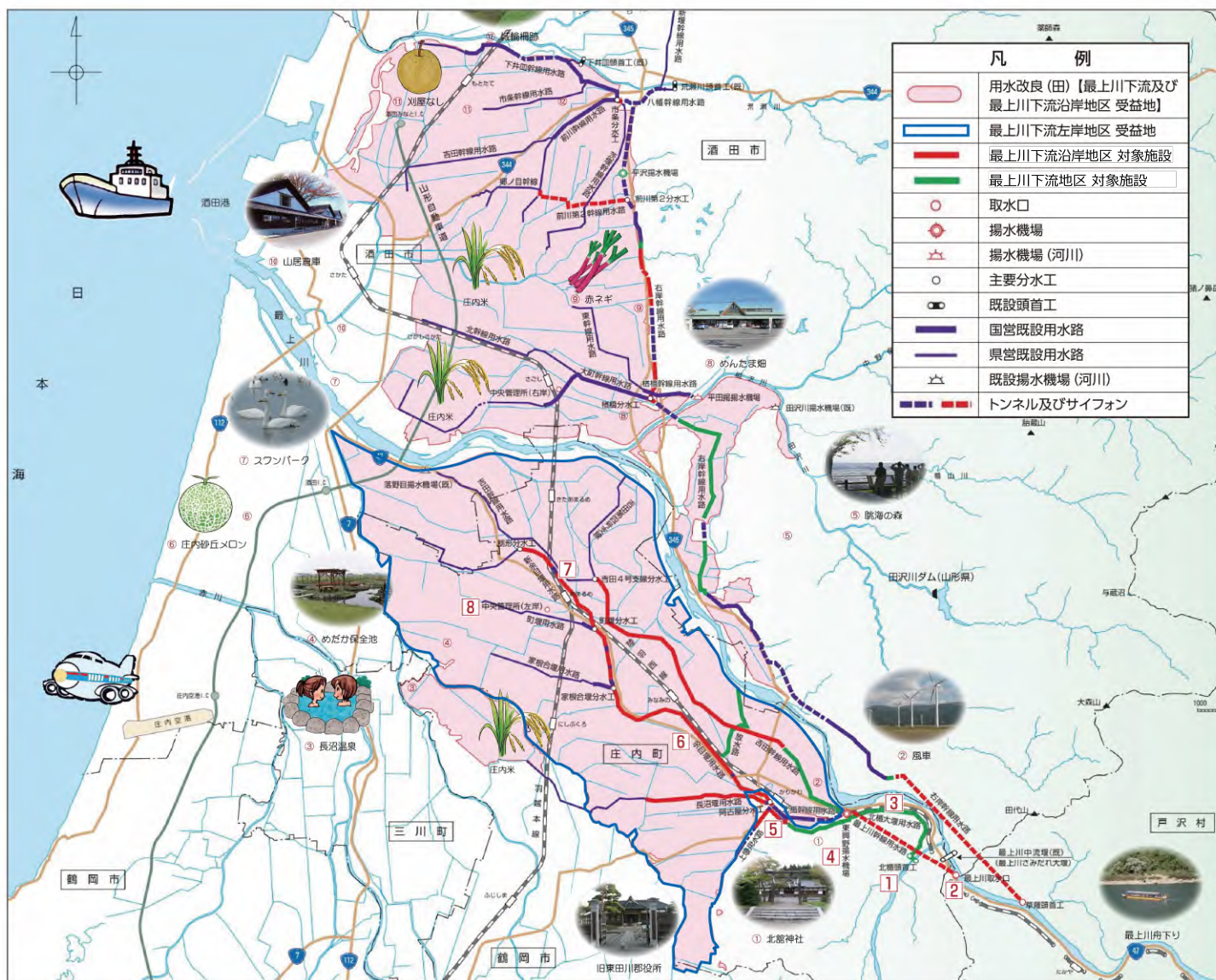
●県営かんがい排水事業「最上川排水地区」

関係市町	山形県鶴岡市(旧藤島町)、酒田市(旧酒田市)及び東田川郡庄内町(旧余目町、旧立川町)
受益面積	6,029ha
総事業費	3,492百万円
事業工期	昭和40年度~昭和52年度
事業内容	排水機場 4箇所(毒蛇排水機場、大和排水機場、二段割排水機場、中央排水機場) 幹線排水路 L=33km

●県営ほ場整備事業「最上川地区」

関係市町	山形県鶴岡市(旧藤島町)、酒田市(旧酒田市、旧松山町)及び東田川郡庄内町(旧余目町、旧立川町)
受益面積	5,494ha
総事業費	31,843百万円
事業工期	昭和46年度~平成7年度
事業内容	排水機場 1箇所(西野排水機場) 排水路 L=610km、揚水機場 15箇所 区画整備 5,494ha

前歴事業実施状況



最上川下流左岸地区関係施設

1 北橋頭首工



2 最上川取水口



3 北橋大堰用水路



4 東興野揚水機場



5 上堰用水路



6 余目堰用水路



7 新余目堰用水路



8 中央管理所(左岸)

